

輝け！ みらいアスリート

-第6走者- 古谷 勇斗さん (野球)

このコーナーでは、来年の茨城国体開催応援企画として、市内出身でさまざまなスポーツの分野で活躍する人にスポットをあて、紹介していきます。



ふるや はやと
古谷 勇斗さん
(神住新田/社会人野球チーム所属)

小学校3年から「谷井田スターズ」で野球を始める。中学生の時、「取手リトルシニア」で春の全国選抜大会優勝。藤代高校3年の時、主将として夏の全国高等学校野球選手権大会に出場。大学進学後は、首都大学野球連盟2部で活躍、ベストナインに通算5回選出される。現在、社会人野球の(株)バイタルネット硬式野球部に所属。ポジションはキャッチャー。目標にしている選手は、プロ野球・ソフトバンクの甲斐卓也選手。22歳。

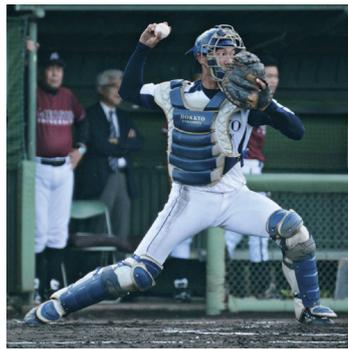


「チームや仲間のために、頑張る。だからこそ喜びも人一倍なんです」

野球は自己犠牲が必要なスポーツと話す古谷さん。「人のために頑張るからこそ、喜びも人一倍。それこそが野球の素晴らしところ」と魅力を語ります。「この経験は野球以外のことにも生かせていると思います」。

中学生のときには、全国制覇を経験。華々しい経歴ですが、本人曰く「元々野球が上手いわけでもない」といいます。「そういう人に負けないくらい努力してきたからこそ、今の自分があります。やらない後悔よりも、やった後悔のほうがいいですから」と、野球にかける真摯な情熱が伝わってきます。

努力することの大切さ学ぶ
古谷さんが野球と出会ったのは小学3年生のとき。当時習っていた空手の帰りに、ふとグラウンドを見ると、必死に白球を追う球児たちの姿があったそう。その懸命な姿に心揺さぶられ「この中で野球がしたい」と、谷井田スターズへの入団を決めました。



チームのために、どれだけ自分を犠牲にできるか
社会人野球デビューとなった今年、「体格も、何もかもが上。学生とのレベル差を感じた」と話します。目標は、社会人の全国大会である都市対抗野球大会への出場。「まずは体をしっかり作って、レギュラーを目指したい」と意気込みを語ってくれました。

甲子園出場で「恩返し」
高校3年生の時には、茨城県大会を勝ち抜き、主将として夏の甲子園に出場。「たくさんの苦勞がありました。その分、県大会で優勝した時の喜びはとても大きかったです。監督、部長先生、両親、今まで応援してくれた人たちに恩返しできたのが嬉しかったです。大会では残念ながら1回戦敗退となりましたが、5打数2安打3打点と、チームをけん引する奮闘を見せました。